

全体発表会 発表内容

<北海道・東北ブロック>

発表者 塚田秋美(北海道)

事業名 平成16年度第8回北海道・東北ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会
 会場 北海道立森少年自然の家
 期日 平成16年10月9日～11日(月)

	都道府県名	リーダー	育成指導者	都道府県名	リーダー	育成指導者
参加道県名 及び 参加者数	青森県	2名	1名	秋田県	2名	4名
	岩手県	0名	0名	山形県	1名	4名
	宮城県	2名	3名	福島県	1名	5名
				北海道	1名	15名
						合計

内容

- ・リーダーのネットワーク作り【広報活動(PR)、ペーパー&映像】
- ・リーダーの連携について、県少年団、指導者協議会、県内・外リーダー会等との連携
 参加者を大きく2つに分け、上記テーマについて協議を行った。協議内容は最終日に全体会にて発表し、協議内容や問題点などの共通理解を図った。
 また、指導者にリーダーから与えられたテーマ「指導者としてリーダー会をどの様にバックアップしていくか」の発表も行った。
 スポーツ活動(3時間)グループワークトレーニング(1.5時間)全体会(まとめ・発表)(1.5時間)研究協議(7.5時間)

1 事業実施成果

「リーダーのネットワーク作り」

前々回・前回からの続き

北海道・東北ブロックの広報誌を発行しているが、リーダーの手元に届かないなどの問題が度々発生した。各県の事務局との連携不足もあるが、発行側は送ったことの報告と、受取る側も県の事務局に問い合わせ等の行動が必要である。解決策としては、連絡網を整備することだと思われるので、今年度の広報担当県は、責任を持って整備すること。

PRビデオ

前回の大会で話し合われたことを各県に持ち帰り、できる県から取り組むことになっていた。その結果4道県が作成し発表を行った。内容的には不十分であったが、作成したという事は充分評価できる。また、来年度作成するものは、今回の反省を活かし作成することとした。ゆくゆくはこの連絡会で発表してみたい。

その他の広報活動

広報活動には広報誌を発行する他にも手段がある。例えばチラシやポスターを有効に利

用して、リーダー会の会員募集や事業の参加呼び掛け等を行い実績を上げた例もある。

各県ともリーダー会活動を知らない指導者や団員が多く特に高校生リーダーの数が少ない等の問題も表面化している。とにかく地域レベルのリーダー会をアピールすることと、リーダー会活動に対して興味や関心を持ってもらう努力が必要だ。

広報活動の環境は地域によって違うので一概には言えないが、その地域にあった方法で地道に活動することが大事である。

「リーダー間の連携について」

リーダー間の連携について

今回話し合った事を必ず事後報告会で協議し、そして自分達に出来ることを確認して取り組もう。また、事務局や指導者の連絡を待つだけでなく、自ら積極的にアプローチを試みよう。また、リーダー会の現状を把握してもらい連携を密に保つことを心掛けよう。

市町村リーダー会（単位団）との連携

道県リーダー会を発展維持するためには、市町村リーダー会との連携は必要だ。しかし、リーダー会活動を理解していない指導者もいてなかなか連携は進まない。リーダーの力には限界がある。理解を示してくれる指導者を味方につけ地道にリーダー会活動をPRしていくことが必要である。

「他ブロックとの連携」

他ブロックとの連携は、違った意見を聞けたり、交流の輪や視野が広がるなどの利点が多いが、今は北海道と東北ブロックの連携を確立させることが先である。

今年開催される福島大会では、7道県が一堂に会して一つにまとめることが重要である。

「指導者としてリーダー会活動をどの様にバックアップするか」

参加したリーダーの要望で上記テーマのディスカッションを行った。様々な立場にある我々が、リーダー（リーダー会活動）を理解することが、彼らのバックアップすることに繋がるのではないかと話がまとまった。

2 今後の課題等

北海道・東北ブロックは、この事業については先進的であると自負している。参加者については、経験者（前年度参加者）と未経験者（初参加者）が、複数で参加することにより協議内容が逆戻りすることなく、内容の濃い協議をする事が出来ている。また、未経験者もスムーズに協議に参加できている。

今回のテーマでもあった「ネットワーク作り」の一環として作成したPRビデオも我々が予想していた以上の出来であった。このことも上述した参加者の構成が功を奏した結果ではないだろうか（道県内で十分な引継ぎが出来ている。）

唯一残念なことは1道6県が揃わなかったことである。今年こそ北海道・東北ブロックの全てが一堂に会して協議できることを期待している。

< 関東ブロック >

発表者 田中美穂（山梨県）

事業名 第3回関東ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会

会場 山梨県立愛宕山少年自然の家

期日 平成16年10月2日（土）～平成10年10月3日（日）（1泊2日）

都道府県名	リーダー	育成指導者	都道府県名	リーダー	育成指導者
茨城県	3名	1名	千葉県	2名	1名
栃木県	3名	0名	東京都	3名	1名
群馬県	4名	3名	神奈川県	3名	1名
埼玉県	3名	1名	山梨県	11名	2名
				合計	42名

内容

- ・ レク指導のあり方について（3つのレクリエーションについて県ごとに問題点や改善点等を出し、全体でディスカッションを行った。
- ・ 今後の関東リーダー研究大会に求めるもの（参加者を7つのグループ、リーダー6、指導者1に分け、テーマに則って協議し、最後に全体で発表した。
- ・ 講演（1.5時間）「スポーツ少年団のリーダーとは」講師 中村和彦先生（山梨大学）
- ・ 交流活動（アイスブレイク）（1時間）・交流交歓会（2時間）自炊（2時間）

1 事業実施成果

研究協議 では、県に戻ってからすぐに使える実践的なものにするという目的のもと、事前に各県に出したアンケートに基づいてレクテキストを作成し、その中で取り上げた「ホームラン」「歌って集合」「脱獄じゃんけん」の3つのレクリエーションを実際行い、それから悪い点、良い点、改善策を県ごと話し合うという、実践＋ディスカッションという形をとった。場所・時間・参加人数・対象年齢といった様々な条件によってルールを少しずつ変えるなどの意味が出た他、各県ではどういった対応をするかなどの意見交換も行った。

研究協議 では、HK法を用いて今後の関東リーダー研究大会に求めるものについて各グループ内で意見を出し合い、情報交換・交流による関東内のネットワークの強化・引継ぎ、主催する都県の特徴を生かしたものなど、様々な角度からの意見が挙げられた。また、HK法という新しい形のディスカッションで今後の関東リーダー研究大会の方向性がより鮮明になり、これが今回の研究大会の大きな成果であったといえる。

2 今後の課題等

今大会での一番の課題点は、参加側と主催側のリーダーとしての意識。参加側は主催側の動きや内容について批判的に見えることも必要だが、進行をスムーズに行えるようなフォローをしようと感じた。自分の都県で企画・運営を行い、主催側の立場を知っている。だから主催側の意図や流れを強く意識してほしかった。今後は、ただの参加者であるという考えから、リーダー研究大会を創る意識が必要であろう。(5分前行動といった基本的なことが出来ていなかったことも目立った。)

また、1泊2日では、県外から参加する人が多いにも関わらず、短い。研究協議や企画、交流の面から見ても、期間を長くしても良いのではないか。今大会で見えてきた今後の関東リーダー研究大会のビジョンと、様々な反省点をこれからの開催県で活かされることが望まれる。

<北信越ブロック>

発表者 荒木翔（長野県）

事業名 平成 16 年度 北信越ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会
会場 長野県木島平村パノラマランド木島平
期 日 平成 16 年 11 月 13 日～平成 16 年 11 月 14 日（2 日間）

都道府県名	リーダー	育成指導者	都道府県名	リーダー	育成指導者
福井県	8名	2名			
石川県	2名	2名			
新潟県	8名	3名			
長野県	11名	4名			
				合計	40名

内容

「テーマ」・リーダーとは

・リーダー会を運営するためには

レクリエーション研究会（2 時間）グループ討議 ・ （参加者を中学生・高校生以上に分けて上記の各テーマの協議を行った。協議内容は 2 日目の全体会で発表した。

1 事業実施成果

レクリエーション研究会では、各県が 1 つずつレクリエーションを行った。前年度よりも時間に余裕があったので、全てのレクで楽しむことができた。それぞれの工夫もあり、今後の活動に活かすことが出来る内容になった。

討議 ・ では、予め決めてあったテーマから話し合いを始めた。中学生のグループの話し合った「リーダーとは」は「自分のなりたいリーダー」や「今リーダーとして頑張っていること」などを出し合い、その中の共通である「みんなをまとめられる」、高校生以上のグループでは、現在の状況から、これからのリーダー会の運営について考えた。ジュニアからシニアと続けるリーダーが少ないという問題として挙げられ、その解決策としてリーダー会の印象を変えるという意見もあった。結果としてこれから帰ってすぐできることは、大会終了後に交流会をする、活動の詳細を HP などでも PR するという案が出た。

2 今後の課題等

今回 1 県が不参加だったので、これからの北信越ブロック内での呼び掛けや今後のブロック大会への課題として、指導者として、指導者とリーダーの交流の時間を増やすことが必要である。

<東海ブロック>

発表者 渡辺万里子（愛知県）

事業名 第9回東海ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会

会場 愛知県野外研究センター

期日 平成17年3月12日～平成17年3月13日（2日間）

都道府県名	リーダー	育成指導者	都道府県名	リーダー	育成指導者
三重県	13名	1名	静岡県	11名	0名
岐阜県	14名	2名	愛知県	19名	4名
			事務局	0名	1名
			合計		65名

内容

- 研究テーマ（3時間） 実践（3.5時間） 交歓交流会（2時間） 全体会（発表等、1.5時間）
- ・講義「ジュニア期の運動とトレーニング」 静岡理工科大学助教授 富田寿人
 - ・実技内容「発育発達に応じた運動（動きづくり・スタミナづくり）」
 - ・グループディスカッション テーマ「障害者との関わり～身近にある危険」

1 事業実施成果

各県のリーダーがこの1年間実施してきた研修内容の発表

三重県：ジュニアリーダースクールについて、特に小学校4年生から小学校6年生対象で県リーダー会の活動を知ってリーダー会に入るきっかけ作り。

静岡県：初級ジュニアリーダースクール小学4～6年生対象で実施した結果、中学高校まで継続する子どもが多くなった。県リーダー会の活動で障害者の競技運営補助を実施した。

岐阜県：ジュニアリーダー研修会に於いてリーダー活動の説明とエアロビクスを高校生対象に県内各地で実施した。

愛知県：ジュニアリーダースクール受講者を対象にリーダー研修を実施した結果、愛知県のシニアリーダースクール受講者が全国トップクラスになった。

ディスカッション及び実践

参加者が7班に別れ障害者に対する補助のあり方を実践した。

シッティングバレーボールの実践と体験。（障害者・老人福祉で実施）

交歓交流会

愛知県を中心に、各県リーダーが得意分野のレク紹介。

講義及び実践

少年期の骨と筋肉についての具体的な運動内容をきめ細かく講義を受けた。さらに体育館で動きとスタミナの関係の実践を受ける。

2 今後の課題等

研修テーマが、今話題となっている障害者に対する補助活動のあり方であり、障害者の立場での、ものの考え方・ものの見方が勉強できた。昨年、手話を勉強し今年は、目の不自由な障害者についての勉強がありよかった。

富田先生の実践教育では各種ボールと風船を使ったトレーニングで必要な運動の要素が見えて、今後の活動に繋がる。

<近畿ブロック>

発表者 井上春菜（大阪府）

事業名 第4回近畿ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会

会場 海風館

期日 平成17年6月18日～平成17年6月19日（2日間）

都道府県名	リーダー	育成指導者	都道府県名	リーダー	育成指導者
滋賀県	1名	1名	奈良県	2名	1名
京都府	2名	1名	和歌山県	2名	1名
兵庫県	2名	1名	大阪府	11名	4名
				合計	29名

内容

研究協議（3.5時間）問題解決プログラム（2時間）救急法実習（1時間）全体会（2時間）
協議テーマ「リーダー会活動を充実させるためには」

1 事業実施成果

研究大会を実施するにあたり、事前アンケート調査を実施した。これを元に研究協議のテーマを「リーダー会活動を充実させるためには」とすることにした。

リーダーを2グループと指導者グループに分け、1日目は自由な論議をすることにし、1日目の全体会で各分散会の討議内容を互いに確認しあった。各グループの内容がかなり多岐に亘ったので、翌日の分散会では論議の内容を次の2点に絞ることにした。「リーダー会として今からできること」「なぜリーダーを続けているのか」

については、リーダーの必要性を理解しない指導者への対応について、リーダー、育成指導者の両方から意見が出された。多くの指導者にリーダーの必要性を理解してもらうには、どのような方策が考えられるか。

については、参加リーダーの真剣な考えを聞くことができた。

2 今後の課題等

リーダーの必要性を理解してもらうために市町村・単位団の指導者にリーダー会として何が出来るか。こうした研究大会での論議を出来るだけ多くの指導者に伝えることが必要である。リーダー育成に対する基本的な問題であるだけに、今後ともブロック内での情報交換や連携が大切であると考えられる。

<中国ブロック>

発表者 大森博武(岡山県)

事業名 平成 17 年度中国ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会
会場 財団法人岡山県体育協会玉野スポーツセンター
期 日 平成 17 年 7 月 20 日(水)～22 日(金)

都道府県名	リーダー	育成指導者	都道府県名	リーダー	育成指導者
鳥取県	1名	1名	岡山県	1名	1名
島根県	0名	1名			
山口県	2名	1名			
広島県	1名	1名			
				合計	10名

内容

「研究大会」 研究協議(5 時間) まとめ(1 時間)

「中国ブロックスポーツ少年大会」の参加 班付き(指導、全般) 班別行動(自己紹介・レク活動、2 時間) 体力テスト(2 時間) 野外炊事(3 時間) キャンプファイヤー(レク活動、1.5 時間) レクリエーション活動(2 時間)

1 事業実施成果

中国ブロックの「研究大会」での一番重要な問題点、「研究大会そのものの目標・目的が定まっていないこと」について、昨年からの継続課題「ブロック大会でリーダーは何がしたいのか、何が出来るのか、また、リーダーがこれからしていかなければならないこと」を基軸に「研究大会の報告・引継ぎについて」、「研究大会の目標・目的について」の二つのテーマを挙げて討議した。

について現状を聞いてみると、大会後の対応が各県まちまちであり、参加者の中には昨年の報告・引継ぎを受けないままに今回の参加に至っているケースが見受けられた。

2 日目に本題とも言える について討議を進めた。「10 年後のブロック研究大会」と題して、10 年後の研究大会への理想や「こうなっていてほしい」という希望などについて話し合った。

残念ながら、今回の研究大会では研究協議の時間も短く、用意した 2 つの議題について明確な答えを出すまでにいたらなかった。しかし研究大会の目的を明確にすることの重要性や、新しい研究大会の可能性を探ることができた。

2 今後の課題等

今後の課題としては、いかにして中国ブロックのネットワークをどのように確立していくか、また各県の引継ぎの強化して、研究大会に継続性を持たせていくということである。

<四国ブロック>

発表者 白土公子(徳島県)

事業名 平成 16 年度四国ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会
会場 徳島市立青少年交流プラザ
期 日 平成 16 年 10 月 2 日(土)~3 日(日)

都道府県名	リーダー	育成指導者	都道府県名	リーダー	育成指導者
徳島県	9名	1名			
高知県	3名	1名			
香川県	5名	1名			
				合計	20名

内容

指導講習(3.5 時間) 講話「レクリエーションと運動と課題」(2.5 時間) ディスカッション「自分自身がリーダーとして存在するために」の 3 つの柱で構成した。

1 事業実施成果

事業内容については、前年の連絡会の四国ブロック代表者からの要望などを元に内容を決定した。特に今回は、経験を積むことを念頭に置いた。

指導講習は、全てリーダーを中心に進め、指導者は周りから見ることにした。簡単なゲームで雰囲気高め、最後に 4 つのグループを作り、「導入、展開 1、展開 2、まとめ」の役割を決めて、各グループで内容を工夫して実際の説明や指導の仕方を練習した。

講話は、全員で汗をかくくらいの軽い運動をしてレクリエーションとスポーツの関わりについて学習した。活動してよかった事、難しかったことなどを振り返り、シートに書き込みフィードバックすることで、改善点等を客観的に理解することで、人前で説明することのポイントを勉強した。3 県による参加ではあったが、各県の「リーダー会」の現状や活動内容がわかり課題等も明確になった。

2 今後の課題等

今回の、リーダーの自発性・積極性を促すために、ディスカッションやプレゼンテーションの機会を多くしたが、全体的にまだおとなしい感じがするので、来年度の大会ではさらに人前で話すことがに慣れさせるようなプログラムを作ってもらいたい。

来年度以降についても、この大会は、リーダーの手によって作られていくこと。開催県に任せきりにするのではなく、他県がどういったサポートをしていくべきかを考えていくことが重要であると考えます。

<九州ブロック>

発表者 川満睦史(沖縄県)

事業名 平成16年度四国ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会

会場 沖縄県立糸満青年の家

期日 平成16年12月11日～平成16年12月12日(1泊2日間)

都道府県名	リーダー	育成指導者	都道府県名	リーダー	育成指導者
福岡県	5名	1名	大分県	3名	1名
佐賀県	3名	1名	宮崎県	3名	1名
長崎県	3名	1名	鹿児島県	5名	1名
熊本県	3名	1名	沖縄県	11名	2名
				合計	45名

内容

研究協議(4時間)九州各県からの提出テーマについて、全体会、分科会に分かれ協議を行った最終日の全体会の中で発表。スポーツ活動(2.5時間)全体会(1時間)。

1 事業実施成果

九州各県からの提出テーマ「1:リーダー会の現状、2:リーダー会の位置づけ、3:リーダー会の養成・活動促進、4:世代交代と引継ぎ、5:九州リーダー会、6:リーダーバンク、7:リーダーを育成する人材確保、8:OB、指導者、育成担当者の位置付け」について協議した。各県リーダー会認知度の低さ、指導者の意識不足や広報活動不足に苦慮されている問題の中、ホームページの作成、新聞作成、Jrリーダースクール時に入会の推め等の報告があり、各県で作成に取り組むことになる。九州リーダー会、ホームページ設置についても検討に行く。

2 今後の課題等

研究協議時間の増、OBや指導者との連携、自主的活動の場等、リーダー会全体の連絡網としてホームページの設置にむけて取り組んでいけるか。